

# Europe Indicators

発表日:2021年4月27日(火)

## 欧州経済指標コメント:4月ドイツIfo企業景況感

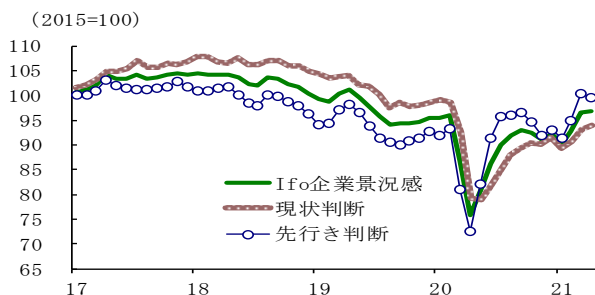
～最近の政局展開は業況に影響したか?～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (TEL:03-5221-4527)

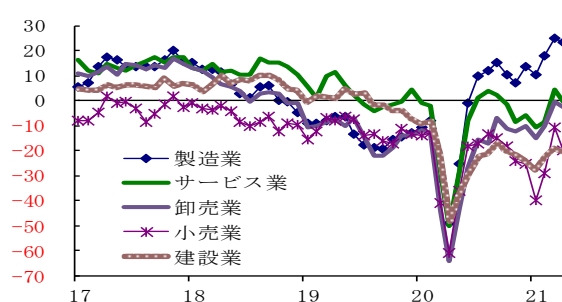
- 26日発表の4月のドイツのIfo企業景況感(2015年=100の指数)は前月を僅かに上回り、3ヶ月連続で増加した。内訳は現状判断が前月から一段と改善した一方で、先行き判断が3ヶ月振りに低下した。世界的な景気回復が業況改善の支えとなったものの、都市封鎖の延長、半導体不足、新興国の感染再拡大、悪天候などの要因が先行きの業況悪化につながった模様。
- 業種別の先行きの業況判断(ゼロが好不況の分岐点)は、製造業(前月:+25.3→今月:+23.4)の改善モメンタムが鈍化、前月に6ヶ月振りにプラス圏に復帰したサービス業(+4.8→▲0.3)がマイナス圏に再転落、卸売業(▲0.4→▲2.3)、小売業(▲10.8→▲19.9)、建設業(▲19.1→20.5)の悪化モメンタムが揃って加速し、何れも前月から業況判断が冷え込んだ。都市封鎖を巡る不透明感が内需関連セクターの重石になったことに加えて、世界的な景気回復が続いているものの、半導体不足の影響や新興国での感染再拡大が製造業の業況慎重化につながっている模様。
- イタリアやフランスが都市封鎖の緩和方針を発表するなか、感染者が高止まりするドイツでは、今のところ行動制限緩和の方針を発表しておらず、先行きの不透明感につながっている。なお、最近の世論調査で秋の連邦議会選後に緑の党が政権を奪取する可能性が高まったことが、先行きの業況にどの程度影響したかは定かでない。緑の党主導の政権では、気候変動対策の強化で親ビジネス色が後退する可能性がある一方で、財政拡張への期待が高まりやすいと考えられる。

■ドイツ:Ifo企業景況感



出所:Ifo

■ドイツ:業種別の先行きの業況判断



出所:Ifo

■ドイツIfo企業景況感

	2020				2021											
	2Q	3Q	4Q	1Q	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
企業景況感(総合)	80.9	91.6	91.9	93.2	86.3	90.0	91.9	92.9	92.5	91.0	92.2	90.3	92.8	96.6	96.8	
現状指数	79.9	87.3	90.6	91.0	81.5	84.6	88.0	89.3	90.4	90.1	91.4	89.2	90.7	93.1	94.1	
先行き指数	82.0	96.1	93.2	95.5	91.3	95.7	96.0	96.6	94.6	91.9	93.1	91.3	94.9	100.3	99.5	
業況判断	-23.3	0.2	0.9	3.8	-11.4	-3.3	0.9	3.0	2.1	-1.1	1.6	-2.7	2.8	11.2	11.5	
製造業	-33.0	-7.1	4.8	16.6	-23.2	-13.3	-6.8	-1.1	1.0	4.2	9.3	9.2	16.5	24.0	25.3	
サービス業	-19.6	5.2	0.2	0.1	-5.9	1.7	7.2	6.6	3.9	-2.9	-0.3	-4.3	-2.1	6.6	3.5	
卸売業	-32.2	-6.6	-0.4	0.8	-18.5	-9.0	-9.4	-1.5	-1.8	-2.5	3.1	-3.8	-1.4	7.7	10.0	
小売業	-28.2	1.0	-3.0	-26.6	-6.5	-0.5	1.7	1.9	1.7	-6.2	-4.6	-34.0	-31.6	-14.3	-14.8	
建設業	-11.5	0.3	-0.7	-2.0	-6.6	-2.0	-0.4	3.4	-0.4	-0.9	-0.7	-5.4	-2.9	2.4	0.4	

出所:Ifo

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

